

EX-05

立体的なネジ台の作成について

大津赤十字病院 リハビリテーション科部

○森田真理子、常深 真一、竹内 舞、園田 雅子、
木林 葉志

私たち、大津赤十字病院の作業療法部門の特徴としては、対象者の約半数がハンドセラピーの患者様であるということです。ハンドセラピーの患者様の受傷起点は、工作中的の怪我や事故が多いため、作業療法では、復職も視野に入れたプログラムも必要とされます。受傷をすると、関節可動域制限や筋力低下、感覚障害など様々な問題が生じるため、それらに対しての介入は必須です。しかし、現場での作業の多くは、視覚的な情報が無い場面でのネジ回しや、様々な姿勢での指先の細かい巧緻性、工具を使用する両手動作などが求められます。そのため、既存の机上での練習だけでは、職場復帰を目指すうえで評価が不十分であると考え、立体的なネジ台の作成を考えました。作成時の工夫点としては、目で指先を確認出来にくいような凸型にした点や軽量化を図り自由自在に置き場所を変えられる点、回外位での指先の操作が出来る点、ネジの大きさに変化をつけ、単純に指先のみで回す練習に加えて工具を使用してネジ回しが出来るようにした点です。また、模擬的な環境を設定することで患者様の復職に対する意欲向上が望めると考えました。実際の訓練場面で導入してみると、セラピスト側からは、現場復帰をするために必要な能力をその場で評価でき、代償動作に対しての指導などの介入をすることが出来ました。患者様側からは、その場で問題点の修正が出来たため、スムーズに職場復帰が出来た方もおられました。また、机上での単純作業よりも両手動作をする機会が増え、作成時に想定していたハンドセラピーの患者様以外の脳血管障害の患者様に対しても使用することが出来ました。

EX-06

車椅子レッグサポート部品の一考案

小野田赤十字病院 老人保健施設あんじゅ

○松田奈津代、山田 恵子、小林 美鈴

当施設は、入所者に標準型の車椅子を貸与しているが、自操が可能な場合駆動しやすいように、レッグレストを除去している。しかし、駆動時に麻痺側の緊張が高まり、フットレストから足部が落下するケースがあった。そこで車椅子を安全に駆動するために、麻痺足がフットレストに安定するサポート部品を考えました。足首部分に合わせた布を巻き、車椅子にもひもを取り付け麻痺足が安定できるように、以下の3点に注目し標準型車椅子に使用できるように作成した。

1. 足首に部分的に圧がかからず、使用時苦痛がないこと。
2. 脱着が容易であること。
3. 安価で標準型車椅子に使用できること。

その結果、入所者からは特に不快感の訴えはなく、職員からも装着に時間がかからず、安全に使用できているという評価を得て、作成時より継続して使用している。